

ともしび

院長通信

7月21日に衆議院解散がありました。

「いよいよ」というより「ようやく」といった方が雰囲気合っているように思いますが皆さんはいかがでしょう。自民党、民主党それぞれのマニフェストを比較する論評があちこちで行われています。私はどっちもどっち、ばらまき方に多少の違いがある程度のところしかわかりません。民主党では「障害者自立支援法廃止」「高齢者医療制度廃止」などと言っておりますが、替わりとなる制度設計が見えていません。自民党のマニフェストはまだしっかり確認してないのでコメントは控えておきましょう。財政の無駄を省くことはどんな中小企業でもやっているところですよ。もし国がそれを怠ってきたのだとしたらまったくけしからんことです。無駄を省くことをしっかりやったら上で早めに消費税論議に入らないと、日本丸は転覆すると思われるのは私だけでしょうか。民主党が政権を取ったら4年間は消費税の議論はしない、と言っているようですがそれでいいのでしょうか。8月30日までの、比較的永い選

第025号
発行所
両毛病院
編集 広報委員会

挙戦になります。それぞれの党のマニフェストにだまされないように注意しながら選挙にのぞみたいと思っております。

そんな風に考えていたら、山口県での大土石流や福岡県の大雨による水害など、各地で大きな被害が出てしまいました。東北地方では夏なのに気温が上がらずに米の不作の心配が出ているようです。栃木県および佐野という地域はほんとうに自然災害の少ない地域だと実感しております。となりの館林では竜巻による被害が起きてしまいました。死者が出なくて何よりでした。これから台風シーズンになりますので、我々も災害に対して細心の注意を払っていきましょう。

新型インフルエンザ対策も院内感染対策委員会で検討されました。お盆外泊に出かける患者さんも多数いらっしゃいます。皆さんもお盆などで多くのご家族とお会いになるでしょう。それだけ感染の機会が増えるということですので、発熱や呼吸器症状が出たときは集団で集まる場所には決して近寄らないでください。

第315号 院長 秋山 一郎

小さなデータから

最近、一寸としたデータに興味を持つた。それは病棟内に居られる患者さんの年齢構成である。当病院の2階病棟の例で取ると、平成21年7月20日現在の23歳から95歳の47名の患者さんが居られる。その中で、20〜44歳年齢層の方は4名(8.5%)で、残りの43名の方が45歳以上の方であった。実に90%以上の方がアラフィフ以上と圧倒的に多い。細かく見ると、50歳代及び60歳代がそれぞれ29.2%、70歳代は18.6%、そして80歳以上が4.2%である。

これが当院だけの現象なのだろうか、別の病院の略同数の定員の女性病棟で、同様の調査を試みた。その結果、その病院では、20〜49歳の患者さんが8名(17.0%)、50歳代が20.8%、以下60歳代：10.4%、70歳代：27.0%、80歳以上：25.0%で、双方の病院で女性病棟の入院患者さんが80%を占めていることが判った。高々2病院の結果であるが極めていい。しかし、細かく見ると、双方で似通った結果が出たのには吃驚させられたが、細部では若干の差を認める。即ち、50歳以上の患者さんの中で、当院では50〜60歳代の方が過半数を占め、他方では70歳以上の方が過半数を占めている。何れにせよ、以前から言われていたように精神障害者の高齢化が進んでいることは間違いない。特に対照にとった

病院では、その傾向が著明であった。恐らく患者さんの高齢化問題は、男性・女性を問わないものと思う。

平四郎さんの爺さんが体をチクチクさせると訴える80歳代の統合失調症患者さん。姉と一緒に住んでいて、何とか日常生活は自立している状態。夫婦に子供が無く、配偶者は脳梗塞で入院を繰り返して、時々落ち込み、つも文句を言われ続け、時々落ち込み、病院に助けを求めに来る60歳代後半の女性。

また、若いとき郷里を出て青壮年期に家族との間で音信の途絶えていた単身者が、初老から老年期に入り、精神症状を伴って郷里に戻ってくる例もある。身内あるいは知人に伴われて受診するが、診療を行うにあたってまず必要なこれまでの生活歴や病状・疾病経過の把握が困難なこともさることながら、その後の医療およびケアの継続をどのようにして確保できるかが難しい。身寄りがある人を受け入れてくれれば問題は比較的スムーズに行くのであるが、そうでない場合、四方八方、手を尽くさざるを得ない。長年、入院生活をしながら高齢化したケースで、状態像が安定化してきたのに在院中に退院先が見つからなくなる例も、上に述べた場合と同じ問題を提起してくる。

解決には何が必要だろうか？

医務課 山本 卓一

楽しかった一泊旅行

4月21・22日と新潟県の越後大湯温泉へ春の一泊旅行に行ってきました。毎年恒例の行事の一つで楽しみにしている患者さんもいました。1日目は、病院を出発する前から雨模様で天気に心配しながらの出発となりました。その心配をよそにバスの車中では患者さん方のカラオケで盛り上がり、あつという間にみさと桜公園に到着しました。三色の花が咲き乱れ自分も初めての見学だったので、患者さんと「きれいだね。」と共感しました。見学後より雨が降り始めてしまいました。昼食は水沢うどん、麺が長くコシがあるため、スタッフは心配しながら見守りましたが、患者さんの美味しそうに食べている姿が印象的でした。その後は舞茸センターに寄ってホテルに着きました。ホテルでは温泉、夜の宴会と楽しいひとときを過ごされている様子でした。中には2〜3回も温泉に入った患者さんもいて、「今までで一番良いホテルだね。」との話を聞くことができました。2日目の朝もあいにくの雨でしたが、次第に天気も回復していききました。小千谷市の錦鯉の里、塩沢つむぎの里、越後湯沢での昼食と続き無事帰院となりました。日頃病院ではみられない表情など、他病棟の患者さんとの交流・共感と自分にとって有意義な時間を過ごす事が出来ました。又、患者さんから「また来年行きたいね。」との言葉も聞かれ無事付き添えたことがとてもよかったです。

看護課

ハッピーバースデー

4月15日、4月生まれの患者さん23名が作業療法室に集い、ハッピーバースデーの合唱をスタートに、ビンゴゲームが参加者全員で行われました。「あー惜しい」「やったー」等ゲームの盛り上がりと共に、あちらこちらから歓声が上ががり、突然に「リーチ」の掛け声。両目大きく見開きカードをみて集中する皆さんの顔が、とっても印象的でした。そして次々と「ビンゴ！」の声も上がり、ボックスステイッシュの賞品を1人ずついただき、嬉しそうな顔を見て職員一同も嬉しくなる思いでした。次にジュースで喉を潤し、一息ついてから、一人ずつこの日最高の笑顔で写真を撮り、次に二番目の笑顔で集合写真のパチリ。最後に、もみの木のケーキを口いっぱい頬張り、満足した表情で締めくくりとなりました。

看護課



レクリエーション大会

5月19日、前日までの夏日とは打ってかわって曇り空の中、レクリエーション大会が行われました。幸い雨も降る事なく、とちのみ学園の皆さんも参加され、無事に楽しい一時を過ごしました。

以前より少し小さくなったグラウンドの中の競技でしたがパン食い競争や綱引き、風船を使った競技等皆さんが積極的に参加され、また転倒してしまった患者さんを気遣ってくださる患者さんの優しさも見受けられたりと、競技以外の患者さんの姿も印象的でした。全力で走り抜いたり、踊ったり、7種目を終え、最後に行われた職員の三人四脚リレーでは、30名が接戦を繰り広げ、足並みを揃えて走る姿に「がんばれ!!」と、大歓声で応援してくださいました。

普段はあまり患者さんと触れあう機会のない私も旗を持ち、ゴールする患者さん達のもとへ走り、一緒に楽しむことができました。競技する患者さんも、グラウンド内が笑顔で溢れ、全員が楽しく参加できた素晴らしいレクリエーション大会になったと思います。

栄養課



遊水池はサイコー!!!

5月9日(土) 下都賀郡藤岡町の遊水池へ患者さんと共にドライブへ行ってきました。お天気にも恵まれ、遊水池は家族連れやサイクリングされている方々でいっぱいでした。遊水池近くの木陰の下で、ビニールシートを広げ、皆さんでひと休み。爽やかな風が吹く中、麦茶を飲みながら皆さん口々に「気持ちいいね。心も落ち着くし。」と話されていたのが印象的でした。少し休んだ後は、散歩に出かけたり、ボートこぎを見るため池のほとりまで出かけたりと、短い時間の中、自然を肌で感じられたドライブとなりました。帰りの車の中でも、「また来たいね。」と嬉しい声もあり、喜んで下さった患者さんが多く本当に良いドライブとなりました。楽しかったです。

看護課



同好会紹介(2)

八木節同好会

毎年、8月上旬に行われる盆踊り大会・・・やぐらからきこえてくる・・・「そ〜れっ」

のかけ声から始まり、太鼓や笛の音・・・八木節の始まりです。そのやぐら上に集いし有志こそが我ら八木節同好会です。

八木節は両毛地方等に伝わる伝統芸であり、当院での同好会活動の歴史も長いようです。

私達は以前から八木節を行っていたわけではなく、メンバーの半分は素人です。主に盆踊り大会が皆さんに披露する場である為、その約1ヶ月前から活動します。

「八木節、やってみる？」と誘われると・・・短期集中コースでやり方をたたきこまれます・・・とは言っても決して難しいものではなく、どなたでも覚えることができます。盆踊り大会が近づいてくると、そういった勧誘をしている事がありますので皆さん・・・気をつけて・・・ではなく、快く参加していただくと嬉しいですよ。

八木節で使用する楽器の中で一番難しいのは「笛」です。毎年盆踊り大会ではボランティアの方に来ていただき、笛の演奏をお願いしていますが、プロの演奏はすばらしいものがあります。私達もプロの領域に近づけるように練

習を積んでいます。

今後は、盆踊り大会だけではなく活動の場を増やしていきたいなと思っています。

もし、興味のある方がいましたら、声をかけて下さい。大歓迎です。よろしくお願ひします。

看護課



読者の声

デイケア一泊旅行

6月11日〜12日と日光霧降高原にデイクアメンバーさんボランティアの大本さんスタッフ計20名で行って来ました。

現地に着いてホテルでチェックインして皆それぞれ各部屋でグループごとにくつろぎました。

そして大浴場は温泉で内風呂と露天風呂があり僕はまず露天風呂に入り、露天風呂は180度景色と眺めが良く関東平野が一望出来るここではじめて「きてよかつたな」と実感しました。

夕食は和風、洋風など品数豊富なバイキングで皆もおいしいと沢山たべました。

夜はカラオケボックスで僕は日ごころのストレスを発散しました。みなさんそれぞれ自慢のものを披露しました。

次の日は日帰りドライブのメンバーさんと大笹牧場へ向かう途中で合流して記念撮影をし、現地で昼食の弁当を食べお土産を買う人や休憩をする人などいました。

楽しいひとときを過ごすことが出来ました。また来年、機会があれば行きたいです。 Nさん



日帰りドライブ

梅雨の始まりの頃、前々日から雨が降り続き心配された天気も、当日は嘘のように晴れた6月23日、私は患者さんと共に日帰りドライブ「オルゴール館と沼田さくらんぼ狩り」に行ってきました。私は、病棟の入院生活とは違った患者さんの姿を新たに発見したいと思ひ参加しました。初めにオルゴール館へ立ち寄り、「いろんな種類があるね。かわいいね。」と普段話したことのない患者さんからの声掛けに驚き、続いて原田農園にて昼食。その後、大きなハウスに案内されました。農園の方が、さくらんぼのもぎ方の説明をしている際、「これ生で食べれるの?」との質問が飛び出し、皆驚いた顔と共に一斉に笑顔がこぼれました。夢中でさくらんぼを口に頬張り、楽しそうにされている患者さんの姿がとても印象的な一日でした。

看護課



チヨットためになるかな？薬の話

薬は体の中に入ってから、
どうなるの？・・・

前回の『吸収』と『分布』の続きで
す。

血液の流れによって全身を循環し作用を現した薬は、肝臓を繰り返し通過する度に分解され、その効力を失っていきます。これを薬の『代謝』といいます。この代謝は、肝臓にある酵素(薬物代謝酵素)によって行われますが、この酵素が他の薬や食品の影響を受けることによって薬の作用が増強されたり、減弱されるなど副作用の原因になることがあります。たとえば、グレープフルーツジュースと高血圧治療薬(カルシウム拮抗薬の一部)を服用すると血圧が下がり過ぎて、頭痛やめまいなどの症状がでることがあるので注意が必要です。

肝臓で代謝された薬は、腎臓で血液中から尿の中に出される経路と肝臓から胆汁中に含まれて腸管を通じて便と一緒に排出される経路があります。これらを薬の『排泄』といいます。この他に、乳汁などにも排泄されますので授乳中の女性は注意が必要です。服用している薬によっては母乳から人工乳に変えた方が安心かと思えます。

私たちが日頃お世話になっている薬は、体の中に入ってから、吸収・分布・

代謝・排泄といった過程をたどります。そして、この様な分野をもっと詳しく調べる学問を、チヨット難しい言葉ですが薬物動態学といっています。

薬剤課

お知らせ

患者さん納涼祭について

日時 9月4日(金)

午後6時30分～8時30分

場所 両毛病院デイケア前

参加費 500円(予定)

参加ご希望の方は、当日
両毛病院デイケア前にて
受付しておりますので、
是非おこし下さい。

編集後記

今年の関東地方の梅雨明けは例年よりも一週間早く、夏本番かと思われたのも数日、その後はもどり梅雨のような天気が続いています。大雨によって土石流が発生して特別養護老人ホームが被害を受けたり、群馬県館林市では竜巻が発生するなど、地球温暖化による異常気象なのでしょう。この広報誌が発行される頃には、青空に浮かぶ入道雲、セミの鳴き声とかき氷が食べたいような夏本来の天候になって欲しいものです。

〒327-0843

連絡先
医療法人秋山会
両毛病院

栃木県佐野市堀米町一六四八
〇二八三 二二二 六一五〇